

仙山圏交通網の充実に向けた 仙山線の利用促進及び 利便性向上プロジェクト

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	11 住み続けられるまちづくりを	13 気候変動に具体的な対策を	17 パートナリシップで目標を達成しよう
-----------------------	-----------------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	-----------------------------

このプロジェクトの推進により、SDGsのこのゴールの達成に貢献することを目指します

令和4年6月

山形市

目次

1. 経緯と課題	1
1-1 経緯.....	1
1-2 現方針の実施状況と課題.....	3
1-2-1 現方針を取り巻く状況の変化.....	3
1-2-2 現方針における令和元年度～令和3年度の主な取組みの実施状況と課題.....	4
1-3 令和4年度以降の新たなプロジェクト.....	7
2. プロジェクトの位置付け	8
3. 目指すべき仙山線の将来像	9
4. 基本方針と基本方針の実現に向けた目標	10
5. 目標を達成するための取組みの体系	11
6. 取組の内容、実施主体、スケジュール	12
7. プロジェクトの進捗管理	23
7-1 評価・進捗管理の考え方.....	23
7-2 取組実施状況確認項目.....	24
7-3 評価指標の設定.....	25
7-4 評価の実施体制.....	27

1. 経緯と課題

1-1 経緯

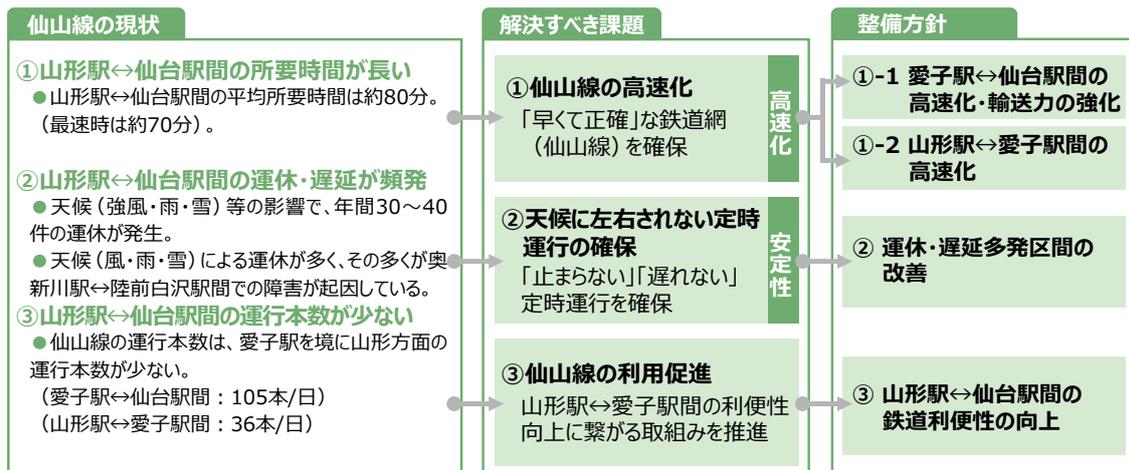
山形市と仙台市がそれぞれの有する資源を有効に活用しながら連携・協力することによって、両市の活力を高め、持続的な発展を図ることを目的として、平成28年11月に山形市と仙台市間で連携協定を締結しました。

連携する分野のひとつに「交通ネットワークに関する分野」を掲げ、山形市において仙山圏の交通網の整備に向けた検討を開始しました。

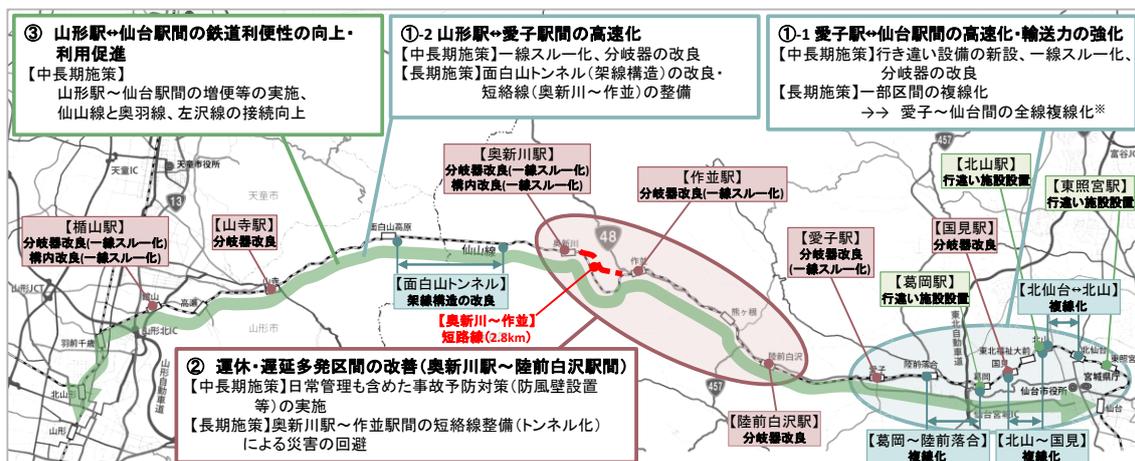
●平成28年度

仙山圏交通網の整備調査として、既存資料や基礎データの整理、仙山圏交通網の現状と課題の整理、仙山圏交流連携促進に向けた道路交通網整備案のメニュー出しや仙山線の機能強化策（ハード・ソフト）のメニュー出しを行いました。そして、以下のように仙山線の現状と課題、整備方針をとりまとめました。

▼鉄道網（仙山線）の現状と課題を踏まえた整備方針



仙山線の利便性を向上させ、利用者を増加させることで、高速化や機能強化につなげる



※愛子駅～仙台駅間は市街化区域内にあり、沿線に家屋が密集していることから、全線複線化に向けた用地取得等は著しく困難な課題である。

●平成 29 年度

仙山線の利用促進及び利便性向上に関する勉強会を開催し、利用促進施策（主にソフト施策）、課題・実現性について意見交換をしました。

●平成 30 年度

勉強会にて施策の絞り込みや優先順位の検討を行い、次年度から実施する具体的な仙山線の利用促進及び利便性向上に関する取組を整理しました。また、当該取組を実施し、令和 5 年度の利用率向上に関する中間検証を行い、検証の結果、利用率の向上が図られた場合に仙山線の機能強化について検討していくという『仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト方針』（以下、「現方針」という。）を決定しました。

▼（参考）現方針の枠組み（H30 年度策定）

	検討着手	短期		中期	長期
	2018	2019	2020・2021	2022・2023	2024～
No.1- 広報PR	H31予算確保 「交通フェスタ」ブースへの出展	① 既存きつぷの利用促進PR ③ 「まるバス」活用モデルコースの検討 ⑦ イベント出展による利用促進PR（交通フェスタへの出展など）	③ 既存「まるバス」活用モデルコースPR ⑥ 公共交通利用促進ウイークの実施 ⑦ 沿線自治体広報等の活用 ⑦ 大学向け既存 2 次交通モデルルートPR	Wきつぷの利用促進 仙山線の利用促進 二次交通の利用促進	各種施策の実施を踏まえて 広報充実
No.2- 2次交通の確保	■ 山交バスの勉強会参加（導入意見確認） H31 予算確保 対策内容整理及び設計等	■ 交通事業者との調整 ■ 観光組合等との調整 ■ 既存サービス企業との調整	④ 山寺駅におけるP&Rの実施 ⑪ バス路線の再編検討 ⑫ 山寺～天童間などの定額タクシー検討	④ 山寺駅におけるK&R待避場整備 ⑫ 大学と仙山線沿線を結ぶ路線バスの充実に向けた検討	山寺駅の利用促進 二次交通の利便性向上による利用促進
No.3- 駅及び周辺環境整備	■ バリアフリー整備事業の整理（北山形駅など）	⑫ バリアフリー整備事業の推進（設計・工事） ⑬ まちづくりの方向性確認（地域別）	⑫ 地域拠点として必要な機能の整理	⑬ まちづくりや2次交通確保に連動した案内誘導の整備	⑬ バリアフリー法対象外駅における整備事業の検討・実施（山寺駅等） 利用環境向上による利用促進
No.4- 観光イベント	■ 観光関連勉強会との連携に向けた検討	⑭ 作並～山寺間スタンプラリーの企画 ⑮ 観光イベントの企画検討	⑭ 作並～山寺間スタンプラリー実施 ⑮ 観光イベントの実施 ⑯ 効果的なイベント列車の活用方法検討	⑭ 仙台圏やその他広域エリアでのイベント対象範囲の拡大検討 ⑯ イベント列車の運行実施	観光振興による利用促進
No.5- 観光マップ	H31 予算確保 外国人向けマップ内容の充実・増刷等	⑰ 外国人向け観光マップの掲載充実	⑰ 観光マップの配布効果把握と継続的な内容の充実改善	⑰ 各種取組実現による利用環境改善内容をマップへ反映実施	観光客への情報充実による利用促進
No.6- 乗車券関連	■ ICカードに関する各種勉強会開催（導入意見確認）	⑱ 仙山線と高速バスの共通利用環境の創出に向けた課題整理 ⑲ 交通系ICカード導入に向けた課題整理	⑱ 仙山線と高速バスの共通利用環境の実現に向けた具体的検討 ⑲ 仙山圏でのバス新設に向けた課題整理 ⑳ 交通系ICカード導入に向けた具体的検討 ㉑ 交通系ICカード導入	⑱ Wきつぷの売り場拡大 ⑲ 仙山圏でのバス新設に向けた具体的検討 ㉑ SUICA利用駅の拡大	利用環境向上による利用促進
		バーソートリップ調査結果の活用と反映（H28に整理した現況課題の補強、H30検討プロジェクトの具体化）		利用率に関する中間検証（2023）	
No.7- 鉄道機能強化		H29調査結果の補足調査 ■ 鉄道機能強化の実現性や課題について関係者間で情報共有を継続 ■ 詳細調査等	補足調査結果の検証	仙山線の接続向上や増便、高速化等に向けた検討	⑲ 羽前千歳駅（奥羽本線）や北山形駅（左沢線）での仙山線の接続向上 ⑲ 山形駅～要子駅 の増便（高速化・輸送力強化に向けた検討）

※①～⑯は関連する利用促進・利便性向上の具体施策（H29整理）の番号 【実施主体】 ※事務局案 ■ 山形市単独 ■ 山形市と仙台市の協働 ■ 山形市と山交バスの協働 ■ 自治体 J R の協働

●令和元年度以降

令和元年度～令和 3 年度は短期的な取組を実施しました。年 1～2 回の勉強会を通して、短期的取組の進捗状況及び現状を踏まえた次年度以降の取組内容の確認を行うとともに、令和 5 年度に予定していた中間検証の方法を検討してきました。

1-2 現方針の実施状況と課題

1-2-1 現方針を取り巻く状況の変化

令和元年度以降、短期的取組みを実施してきましたが、同時に現方針を取り巻く環境も変化してきました。

山形市では、現方針の上位計画となる「山形市発展計画2025」、「山形市立地適正化計画」、「山形市地域公共交通計画」が見直し・策定されました。また、令和4年度に地域連携 IC カードを導入することが決定したことにより、今後地域連携 IC カードを活用し利便性の向上を図る取組みを具体的に検討できる段階となりました。

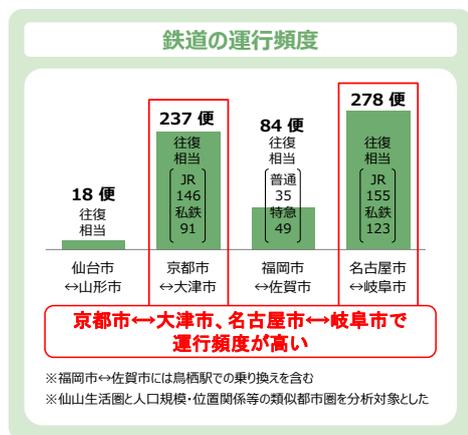
全国・世界的な変化として、MaaS (Mobility as a Service) の取組みが活発化し、TOHOKU MaaS や仙台 MaaS が稼働しました。また、予期せぬ状況の変化として、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の影響により、これまでの生活様式や価値観、働き方などに様々な変化をもたらしました。

さらに、平成 29 年度に実施した山形広域都市圏パーソントリップ調査や仙台都市圏パーソントリップ調査の結果から、山形-仙台間の交通現況を詳細に把握するとともに、山形-仙台間の類似都市圏の比較分析の結果から、鉄道分担率が高い都市圏ほど通勤に関する交流が活発であることが明らかとなりました。

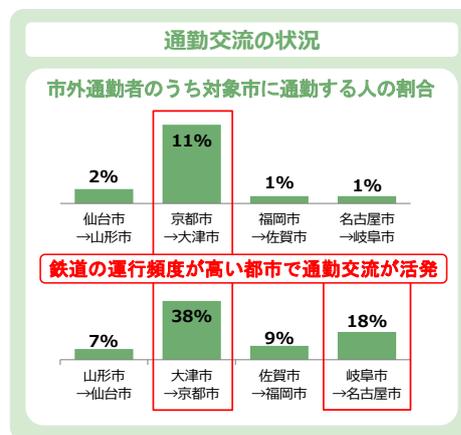
▼現方針を取り巻く状況の変化

状況の変化	分析結果
■上位計画の見直し ・山形市発展計画2025 (令和2年3月策定、令和3年2月変更) ・山形市立地適正化計画 (令和3年3月策定) ・山形市地域公共交通計画 (令和3年3月策定)	■山形広域都市圏及び仙台都市圏パーソントリップ調査結果を活用した「仙山生活圏」の分析結果とりまとめ (令和元年度-令和2年度)
■地域連携 IC カードの導入 (令和4年5月 サービスイン)	
■新型コロナウイルス感染症の拡大 (令和2年～)	■類似都市圏との比較分析 結果とりまとめ (令和2年度)
■MaaS の取組みの活発化 ・TOHOKU MaaS (令和3年4月1日-令和4年3月31日) ・仙台 MaaS (令和3年10月30日～)	

▼類似都市圏との比較分析



出典：各鉄道事業者時刻表 (R3.2 時点)



出典：国勢調査 (H27)

1-2-2 現方針における令和元年度～令和3年度の主な取組みの実施状況と課題

令和元年度～令和3年度の3年間で、主に下表に示す短期的取組みを実施しました。現方針を進める中で見えてきた課題や、現方針を取り巻く環境の変化により対応すべき課題など、様々な課題が生じています。

▼令和元年度～令和3年度の主な取組みの実施状況と課題 (1/3)

広報PRプロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
広報やまがたでの公共交通利用促進PR	山形市	・広報やまがたに仙山線の利用促進啓発記事を掲載 (R1～R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・策定または見直しされた上位計画等に基づき、公共交通全体の利用啓発に努めることが必要 ・仙山線利用の意識醸成を図るために、個別プロジェクトの各種取組みの実施状況や成果を効果的に周知していくことが必要
市政広報番組内での仙山線PR	山形市	・山形市市政広報鉄道との乗り継ぎに役立つ、山交バスの路線バスに導入した行先番号のPRを実施 (R2)	
仙台市交通フェスタでのPR	山形市	・仙台市交通フェスタにおいて仙山線の利用促進啓発活動 (パネル展示、チラシ配布等) を実施 (R1)	
観光系パンフレットでの「仙台まるごとバス」利用仙山線モデルコース掲載	山形市 仙台市	・リーフレット、ポスター、フリーペーパー、旅行雑誌に「仙台まるごとバス」の情報を掲載 (R1～R3)	
大学との連携による仙山線利用通学ルートでのPR	山形市 山交バス	・山形大学及び東北芸術工科大学に山交バス時刻表を設置 (R1～R3)	
ノーマイカーデーと連携した公共交通利用促進ウィークの実施	山形市	・市職員を対象としたノーマイカー通勤の試行を実施 (R3)	

二次交通の確保プロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
(山寺駅) 既存観光駐車場平日活用によるP&R実施	山形市	・山寺駅周辺の駐車場を利用したパーク&ライドによる通勤・通学スタイルの啓発手法について検討 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通の整備については、策定または見直しされた上位計画等に基づき計画的に推進していくことが必要 ・仙台市から山形市への通勤先の分布は市街地内広範囲に分布しており、通勤における自動車分担率が60%となっている。仙台から山形への通勤における鉄道分担率を高めるためには都市内の二次交通の充実が必要。 ・山寺駅は山寺や天童温泉等の観光地への玄関口と、市内北部や近隣市町の住民の仙台市への通勤通学の玄関口の二面性を有することから、それぞれのニーズに応じた二次交通の検討が必要
(山寺駅) 定額タクシー検討	山形市	・山寺のメインストリートである門前の歩行者天国入口、観光拠点を結ぶシャトルの実証運行を実施 (R3)	
(楯山駅) 定額タクシー検討	山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・仙山線に付随する交通結節点となる楯山駅までのタクシーなどを活用した新たな二次交通の導入を、山形市地域公共交通計画のモデル事業に位置付ける (R2) ・新たな公共交通導入に向けて楯山地区とともに検討を実施 (R3) 	
(羽前千歳駅) 定額タクシー検討	山形市	・馬見ヶ崎・嶋地区や、県立中央病院へのアクセスを踏まえ、羽前千歳駅を中心とした新たな循環バスを、山形市地域公共交通計画のモデル事業に位置付ける (R2)	
(山形駅) 既存二次交通を利用した仙山線利用通学ルートでの広報実施	山形市 山交バス	・山形大学及び東北芸術工科大学に山交バス時刻表を設置 (R1～R3)	

▼令和元年度～令和3年度の主な取組みの実施状況と課題（2/3）

駅及び周辺の環境整備プロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
バリアフリー整備事業の推進（北山形駅）	JR東日本 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・線路への転落防止を目的とした各ホームへの内方線付き点状ブロックを整備（令和3年3月完成） ・駅構内に多機能トイレを整備（令和4年3月完成予定） ・ホームにエレベーターを整備（令和5年3月完成予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・北山形駅以外の鉄道駅についてもバリアフリー化の推進が必要、特に観光需要が高い山寺駅のバリアフリー化の検討が必要 ・鉄道駅のバリアフリー化や二次交通の整備に合わせて、交通結節点として鉄道駅に必要な乗り換え機能等を整備し、乗継ぎの利便性を向上させていくことが必要
日本遺産（山寺）関連の環境整備の実施	山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・山寺地内に紅花プランターを設置 ・地域住民による紅花栽培の実施 ・山寺が支えた紅花文化を紹介する映像の放映 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産（山寺）に関する受入環境整備を行いながら、ランドオペレーターやガイドを育成し、着地型旅行商品を造成していくことが必要

観光イベントプロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
作並・山寺スタンプラリー等の実施	仙台市 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムを用いたフォトコンテストを実施（R1～R2） ・山寺、作並等の広域的な旅行商品の開発検討に向けて仙山線を活用した山寺・作並観光のモニターツアーを実施（R3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの流行は近場で何ができるかを考えるきっかけとなっており、山形-仙台の圏域で、近場でどのようなアクティビティができるかという提案が大事
日本遺産（山寺）関連事業の実施	山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産ガイド育成に向けたワークショップを開催（R1） ・山寺門前町イラストMAPを製作（R2） ・インバウンド向け旅行商品の企画と造成等、インバウンドの受入環境の整備を実施（R2） ・紅花を活用した産業振興（紅花弁当、山寺特産のお土産作り）を推進（R3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催による誘客促進に加え、観光地自体の魅力を高め新規の来訪やリピーターを増進していく取組みが必要 ・休日の仙台市民の滞在は山形連携中枢都市圏に分散している。仙山線を活用した山寺・作並観光をベースとして、秋保・天童等を加えた広域的な観光プランを造成・発信していくことが有効
スタンプラリー連動型イベント列車の運行	JR東日本 仙台市 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・仙山線臨時列車を運行（R1～R2） ・仙山線臨時列車の運行に合わせてイベントを開催（R1～R2） 	

観光マッププロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
仙山線沿線観光マップの配布継続	仙台市 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に情報内容の見直しを行いながら仙山線マップ（日本語版・英語版）を継続的に作成・配布（R1～R3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響など社会情勢が大きく変化する中で、従来の紙媒体でのマップに加え、SNSなどの活用など、それぞれの利点や対象者を踏まえ効果的な情報発信のあり方検討が必要

乗車券関連プロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
交通系ICカードの導入	山交バス 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスやコミュニティバスへの交通系ICカードの導入に向けた検討・協議を実施（R4導入予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市と仙台市の都市間移動の利便性を向上させるためには、鉄道、路線バス、その他の交通モードを束ねるMaaSの導入や既存MaaSとの連携によるシームレスな交通サービスが必要
仙山線と高速バスの共通利用環境の実現に向けた具体的検討	山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市MaaS勉強会でMaaS活用例（今後想定されるサービス）として、JRと高速バスの相互利用について意見交換を実施（R3） 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に路線バス等において、交通系ICカードの利用が可能になることを踏まえ、鉄道と路線バス等での交通系ICカードの相互利用による利便性向上を図るために、交通系ICカード未対応の鉄道駅改札の対応化の検討が必要
Wきっぷ販売拡大に向けた検討	JR東日本 山形市	<ul style="list-style-type: none"> ・広報やまがたや仙台市交通フェスタにおいてWきっぷのPRを実施（R1～R3） 	

▼令和元年度～令和3年度の主な取組みの実施状況と課題 (3/3)

鉄道機能強化プロジェクト			
主な取組	実施主体	実施状況	課題
①奥羽本線や左沢線と仙山線の接続向上	山形市	・パーソントリップ調査データから仙山線の利用実態の詳細分析を実施 (R2)	・「仙山生活圏の交流促進に関する調査分析」「類似都市圏との比較分析」から、鉄道分担率が高い都市圏ほど通勤に関する交流が活発であることが確認された。仙山生活圏が活発な交流が図られる魅力的な圏域に発展していくためには、仙山線の利用促進と機能強化を両輪として双方の実現を目指していくことが必要
②仙山線・山形～愛子間の増便	山形市		
その他の課題	・各取組の実施状況や効果を定期的に評価し、取組内容に反映していくことが必要		

1-3 令和4年度以降の新たなプロジェクト

取組みを効果的に推進していくためには、状況の変化や前述の課題に対応し、取組みの進め方や各取組の内容について、見直しや新設、廃止等の柔軟な対応が必要となっています。

また、取組みを着実に進めるため、一定期間ごとの進捗確認や目標達成状況の評価も必要です。

これまで「仙山線の利便性を向上させ、利用者を増加させることで、高速化や機能強化につながる」という考え方で利便性向上に重点を置き取り組んできましたが、仙山生活圏の更なる交流促進や安全性向上には仙山線の『機能強化』も不可欠であることから、令和4年度以降は「利用促進・利便性向上」と「機能強化」を両輪として、双方の実現を目指していくこととします。

このことから、現方針を見直し、令和4年度以降の仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上プロジェクト（以下、「プロジェクト」という。）は、以下の考え方により推進していくこととします。

▼令和4年度以降の新たなプロジェクトの考え方

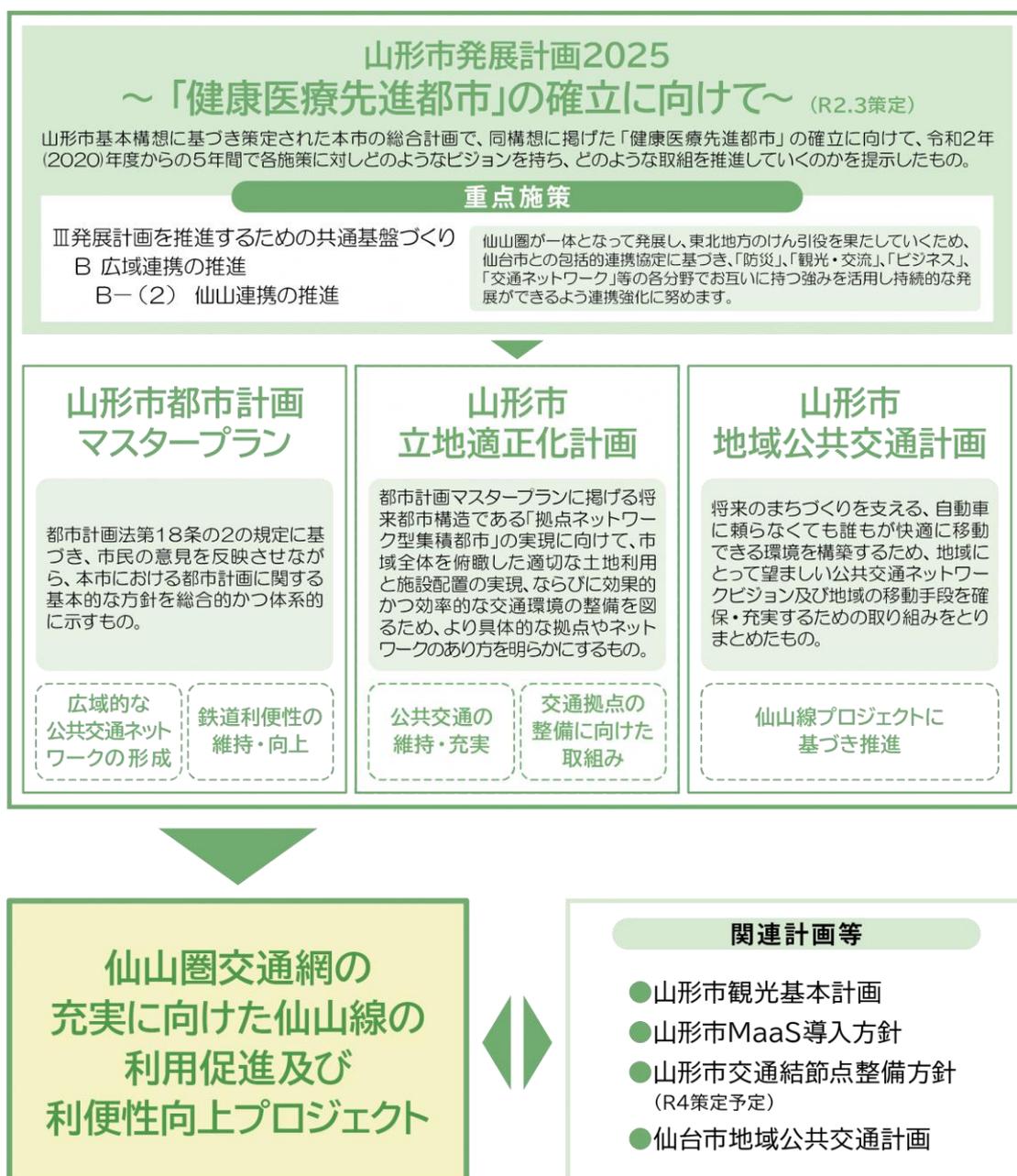
- 仙山生活圏の交流促進の実現に向けた仙山線の将来像として「仙山線の機能強化及び利用促進・利便性向上による仙山生活圏の交流促進と安全性向上」を掲げ、仙山線の機能強化と利用促進・利便性向上を両輪に、双方の実現を目指していく。
- 将来像の実現に向けて、今後5年間の取組みの基本方針・目標を設定し、目標達成のための取組を推進する。
- 各取組みの実施状況や進捗状況を年度ごとに把握する。また、目標に対する評価指標を設定し、目標の達成状況を評価する。

2. プロジェクトの位置付け

山形市の最上位計画である「山形市発展計画2025」において、仙山圏が一体となって発展し、東北地方のけん引役を果たしていくため、仙台市との包括的連携協定に基づき、「防災」、「観光・交流」、「ビジネス」、「交通ネットワーク」等の各分野で連携強化に努めていくこととしています。

プロジェクトは、山形市発展計画を上位計画とし、また、本市の都市計画の方針を示す「山形市都市計画マスタープラン」、適切な土地利用と施設配置に向けて拠点やネットワークの在り方を示す「山形市立地適正化計画」、公共交通の在り方に関する計画である「山形市地域公共交通計画」を関連計画としています。

▼プロジェクトの上位計画・関連計画



3. 目指すべき仙山線の将来像

仙山線は、山形市と仙台市の両市民が日常的に都市間を行き来し、互いの都市の機能を有効に活用しあいながら生活する「仙山生活圏」の移動を支えるインフラであることから、目指すべき将来像を以下のように設定します。

目指すべき仙山線の将来像

仙山線の機能強化及び利用促進・利便性向上による 仙山生活圏の交流促進と安全性の向上

東北最大の都市仙台市と山形県都である山形市を結ぶ仙山線の利便性向上を図ることにより利用を促進し、日常生活や観光、ビジネス等各分野での交流の活発化を目指します。

また、運休・遅延の抑制や輸送力強化などの機能向上を図ることにより、仙山生活圏の安定的な輸送、リダンダンシー機能の確保を目指します。

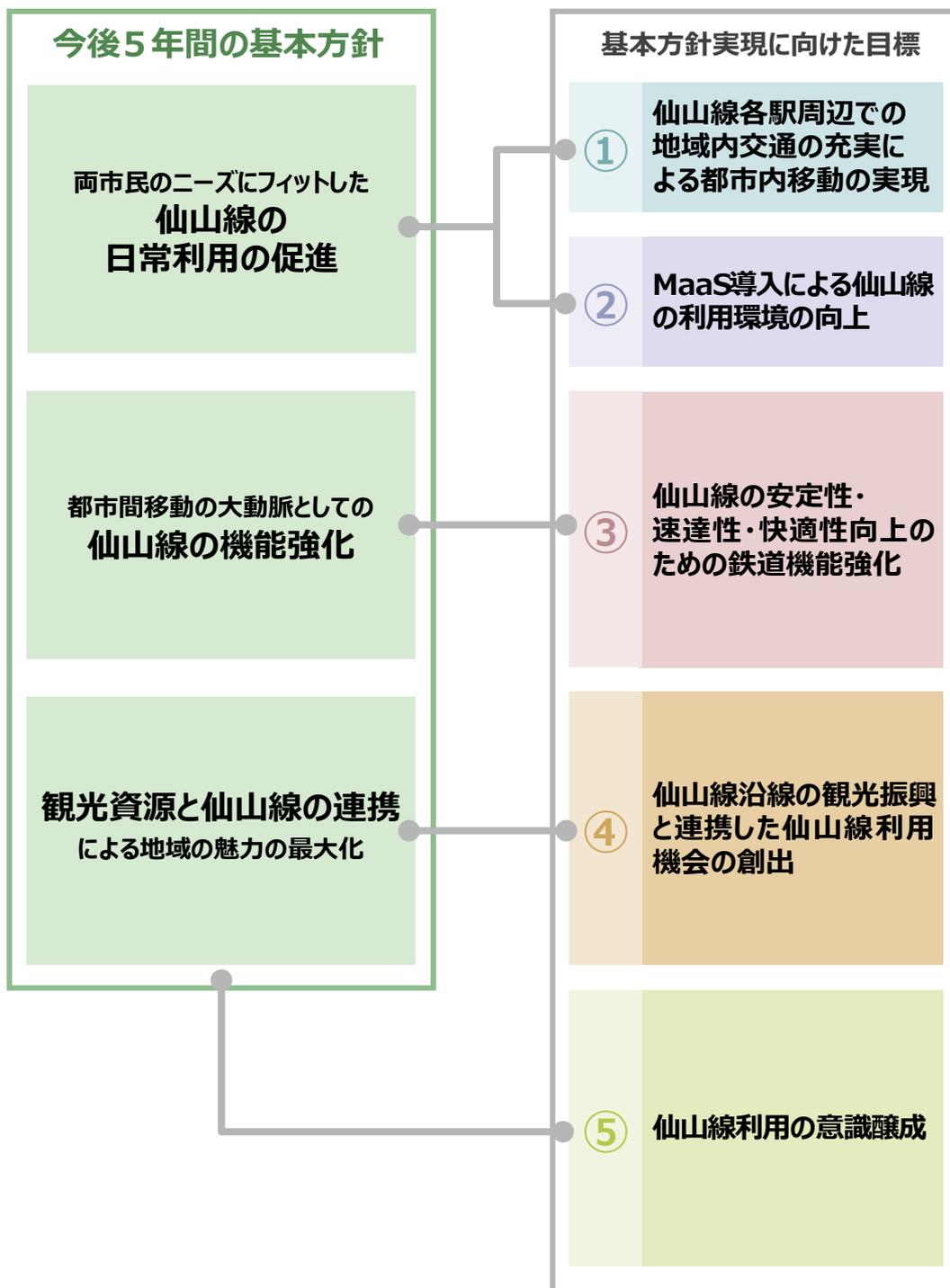
本プロジェクトは、目指すべき仙山線の将来像の段階的な実現に向け、短期的に実行可能な取組みを実施していく期間を5年間とします。

目指すべき仙山線の将来像の実現に向けてはソフトやハード整備が必要な部分もあるため、5年間の本プロジェクトの取組期間を超え、上位計画である山形市地域公共交通計画における公共交通ネットワークビジョンの実現に合わせて長期的かつ継続的に取り組んでいきます。

4. 基本方針と基本方針の実現に向けた目標

目指すべき将来像の実現に向けて、今後5年間の基本方針、基本方針の実現に向けた目標を以下のように掲げます。

▼基本方針及び基本方針の実現に向けた目標



5. 目標を達成するための取組みの体系

5つの目標に沿って取組みを展開していきます。それぞれの目標において達成に向けた施策、プロジェクト関係機関の密な連携などにより、取組の推進を図っていきます。

▼目標を達成するための取組みの体系

目標	目標を達成するための取組
① 仙山線各駅周辺での 地域内交通の充実に よる都市内移動の実現	取組 1-1 バスを活用した地域内交通の導入 (1) 北部循環バス（（仮称）北くるりん）の導入【継続】
	取組 1-2 タクシー等を活用した地域内交通の導入 (1) 【山寺駅】観光系地域内交通の導入【新規】 (2) 【楯山駅】鉄道駅との結節に着目した交通サービスの導入【継続】
	取組 1-3 自転車を活用した地域内交通の導入 (1) コミュニティサイクルの導入【新規】
② MaaS 導入による 仙山線の利用環境の向上	取組 2 MaaS 導入による仙山線の利便性向上 (1) 交通系 IC カードの利用拡大【継続】 (2) コミュニティサイクルの導入（再掲）【新規】 (3) 鉄道と高速バスの連携チケットの発行【継続】 (4) TOHOKU MaaS や仙台 MaaS 等との連携【新規】
③ 仙山線の安定性・ 速達性・快適性向上 のための鉄道機能強化	取組 3-1 鉄道駅のバリアフリー化 (1) 北山形駅バリアフリー化整備事業の推進【継続】 (2) 山寺駅等のバリアフリー化【新規】
	取組 3-2 駅前広場等の整備 (1) 交通結節点（駅前広場等）の整備【新規】
	取組 3-3 交通系 IC カード対応駅の拡大 (1) 交通系 IC カード対応駅の拡大【新規】
	取組 3-4 他路線と仙山線の接続向上 (1) 奥羽本線や左沢線と仙山線の接続向上【拡充】
	取組 3-5 仙山線の増便 (1) 仙山線（山形～愛子間）の増便【拡充】
④ 仙山線沿線の 観光振興と連携した 仙山線利用機会の創出	取組 4-1 山形・仙台をつなぐ広域エリアでの観光振興 (1) 仙山線を活用した旅行商品の造成【新規】
	取組 4-2 観光イベントの開催 (1) イベント列車の運行【継続】 (2) 日本遺産（山寺が支えた紅花文化）関連イベントの実施【継続】
	取組 4-3 仙山線沿線観光マップの配布・配信 (1) 仙山線に関連するマップの配布・配信【継続】
	取組 4-4 門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出 (1) 駐車場や遊休不動産の活用による山寺への誘客促進と回遊性向上【新規】 (2) 魅力ある景観形成の推進による山寺への誘客促進【新規】
⑤ 仙山線利用の意識醸成	取組 5 仙山線利用の意識醸成 (1) 仙山線利用促進の PR【継続】



プロジェクトの
推進にあたって

全体最適化の視点から不断に P D C A サイクルによる見直し

6. 取組の内容、実施主体、スケジュール

前節で示した今後の取組の具体的な内容について以下に示します。令和4年度以降の新規の取組については取組名の隣に「新規」と表示し、現方針策定当初からの取組については「継続」、当初からの取組の内容を見直すものは「見直し」と区分し、その実現を目指して行きます。令和4年から5年間を目途とする事業を「計画期間内事業」、令和4年から長期的に進める事業を「長期的事業」とします。

① 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現

取組1-1 バスを活用した地域内交通の導入

取組番号	(1)	取組名	北部循環バス ((仮称)北くるりん)の導入	生活	継続	
計画期間内事業	<p>①具体的な運行ルートダイヤ、運賃などを検討し、実証実験を経て導入を目指す。</p> <p>②市北部の拠点・総合病院等を結ぶ循環バスを導入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 導入にあたっては既存の路線バスの経路やタクシー業界にも影響することから、バス事業者やタクシー事業者と協議しながら検討する。 立地適正化計画における準都市機能誘導区域である馬見ヶ崎・嶋地区やニーズが高い県立中央病院へのアクセスを踏まえ、羽前千歳駅を中心とした循環バスについて検討していく。なお、連携中枢都市圏における他市町からの県立中央病院への移動ニーズも高いことなど検討課題も多いことから、様々な角度からの検討を踏まえて進めていく。 <p>(仮称)北くるりんルートイメージ</p> <p>※上記に記載した施設は、運行が想定される主な施設</p> <p>出典：山形市地域公共交通計画</p>					
実施主体 連携する主体	山形市 バス事業者、タクシー事業者					
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)
	①	検討・協議	実証実験			
	②				導入	

取組 1-2 タクシー等を活用した地域内交通の導入

取組番号	(1)	取組名	【山寺駅】 観光系地域内交通の導入				観光	新規
計画期間内 事業	①山寺観光協会や地元自治会との意見交換を踏まえながら、河川敷の大型駐車場や山寺駅を起点として、山寺地内の観光拠点を結ぶ観光系地域内交通の導入を検討する。 ・導入にあたっては、地域の生活交通としての活用や近隣自治体の公共交通との連携についても併せて検討する。							
実施主体 連携する主体	山形市 交通事業者							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・協議		実証実験	導入			

取組番号	(2)	取組名	【楯山駅】 鉄道駅との結節に着目した 交通サービスの導入				生活	継続
計画期間内 事業	①楯山駅での中心市街地や仙台市方面への鉄道との結節も視野に、タクシー等を活用した新たな地域公共交通を導入する。							
実施主体 連携する主体	山形市 地区団体、福祉団体							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・協議	実証実験		導入			

取組 1-3 自転車を活用した地域内交通の導入

取組番号	(1)	取組名	コミュニティサイクルの導入				生活 観光	新規
計画期間内 事業	①鉄道や高速バスによる通勤・通学者、観光客などの移動環境の向上を図るため、山形駅・山寺駅付近及び中心市街地等にコミュニティサイクルを導入する。 ・導入にあたって MaaS による他の交通モードとの連携や交通系 IC カードの活用等について検討するため、複数年の実証実験を踏まえた本格導入を目指す。							
長期的事業	②実証実験の検証を踏まえ、その他の市内各鉄道駅付近等への導入について検討し順次導入する。							
実施主体 連携する主体	山形市 コミュニティサイクル事業者							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	実証実験		導入				
	②	検討・順次導入						

② MaaS 導入による仙山線の利用環境の向上

取組 2 MaaS 導入による仙山線の利便性向上

※山形市 MaaS 導入方針（令和 3 年度策定）に基づき、仙山線の利用促進に向けて主に以下の取組を推進する。

取組番号	(1)	取組名	交通系 IC カードの利用拡大			生活	継続
計画期間内事業	①令和 4 年度当初に路線バス及びベニちゃんバス（東くるりん・西くるりん）において、交通系 IC カードの利用を開始することを踏まえ、交通系 IC カードの普及啓発を実施し利用を拡大する。 ・鉄道や路線バス等における交通系 IC カードの相互利用の実現に向けて、別途、鉄道事業者と交通系 IC カード未対応の鉄道駅改札の対応化について協議しながら検討する。						
実施主体連携する主体	山形市、バス事業者						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	実施					

取組番号	(2)	取組名	コミュニティサイクルの導入（再掲）			生活観光	新規
計画期間内事業	①鉄道や高速バスによる通勤・通学者、観光客などの移動環境の向上を図るため、山形駅・山寺駅付近及び中心市街地等にコミュニティサイクルを導入する。 ・導入にあたって MaaS による他の交通モードとの連携や交通系 IC カードの活用等について検討するため、複数年の実証実験を踏まえた本格導入を目指す。						
長期的事業	②実証実験の検証を踏まえ、その他の市内各鉄道駅付近等への導入について検討し順次導入する。						
実施主体連携する主体	山形市 コミュニティサイクル事業者						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	実証実験		導入			
	②	検討・順次導入					

取組番号	(3)	取組名	鉄道と高速バスの連携チケットの発行				生活	継続
長期的事業	①山形・仙台の都市間移動について、目的や時間に応じて移動手段が選択できるよう、鉄道（仙山線）と高速バスの相互利用チケットの発行について関係機関と検討を行う。							
実施主体 連携する主体	山形市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討						

取組番号	(4)	取組名	TOHOKU MaaS や仙台 MaaS 等との連携				生活	新規
長期的事業	①TOHOKU MaaS (JR 東日本) や仙台 MaaS (仙台市) 等との連携による山形・仙台の都市間移動の利便性向上について関係機関と検討を行う。							
実施主体 連携する主体	山形市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・順次実施						

③ 仙山線の安定性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化

取組3-1 鉄道駅のバリアフリー化

取組番号	(1)	取組名	北山形駅バリアフリー整備化整備事業の推進				生活	継続
計画期間内事業	①北山形駅のホームにエレベーターを整備する。(北山形駅構内の移動円滑化経路の整備を含む)							
実施主体 連携する主体	鉄道事業者 国土交通省、山形県、山形市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	北山形駅整備						

取組番号	(2)	取組名	山寺駅等のバリアフリー化			生活 (観光)	拡充
長期的事業	①観光需要が高い山寺駅などのバリアフリー化について鉄道事業者と協議しながら検討する。 ・検討の結果に応じて、具体的な整備方針の策定、設計、整備へと進めていく。						
実施主体 連携する主体	山形市						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	検討・協議・随時実施					

取組3-2 駅前広場等の整備

取組番号	(1)	取組名	交通結節点(駅前広場等)の整備			生活	新規	
計画期間内事業	①交通結節点整備方針に基づき、交通結節点として駅前広場等に必要な機能を整備する。 ・整備にあたっては鉄道駅のバリアフリー化についても一体的に検討する。							
長期的事業	②鉄道駅までのアクセス性の向上のため、関係機関と連携しながらアクセス道路や消雪道路などの基盤整備を検討する。							
実施主体 連携する主体	山形市 交通事業者							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	順次設計・整備						
	②	検討・協議・随時実施						

取組 3-3 交通系 IC カード対応駅の拡大

取組番号	(1)	取組名	交通系 IC カード対応駅の拡大				生活	拡充
長期的事業	①令和4年度当初に路線バス及びベニちゃんバス（東くるりん・西くるりん）において、交通系 IC カードの利用を開始することを踏まえ、鉄道と路線バス等での交通系 IC カードの相互利用による利便性向上を図るために、交通系 IC カード未対応の鉄道駅改札の対応化について、鉄道事業者と協議しながら検討する。							
実施主体 連携する主体	山形市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・協議						

取組 3-4 他路線と仙山線の接続向上

取組番号	(1)	取組名	奥羽本線や左沢線と仙山線の接続向上				生活	拡充
長期的事業	①奥羽本線（羽前千歳駅）や左沢線（北山形駅）との乗り継ぎの待ち時間の短縮が図られるよう、ダイヤ編成やその他の対応策について、鉄道事業者と協議しながら検討する。							
▼仙山線と奥羽本線・左沢線の接続状況								
出典：仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上に関する勉強会資料 (平成 29 年 11 月山形市)								
実施主体 連携する主体	山形市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・協議						

取組 3 - 5 仙山線の増便

取組番号	(1)	取組名	仙山線（山形～愛子間）の増便			生活	拡充
長期的事業	<p>①愛子駅での乗り換えを伴うが、山形駅～仙台駅間の運行便数の増加を図るための山形駅～愛子駅の増便について、鉄道事業者と協議しながら検討する。</p>						
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>山形駅～愛子駅間の増便可能性</p> <p>停車駅：各駅停車とする <small>※所要時間（山形～愛子間）概ね60分</small> 車両：現況のE721系と同じ能力を想定 ダイヤ：H28.7時点の時刻表</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>増便が可能と考える本数 上り5本、下り5本 計10本</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p>山形駅～愛子駅間を増発し、仙台駅方面へは愛子駅で乗り換えた場合、ダイヤの編成によっては現在の直通便に比べ所要時間が短くなる可能性がある</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>▼愛子駅乗換時の山形駅～仙台駅間の平均所要時間</p> <p>※ノンストップ便の愛子駅乗換時の所要時間は、山形駅～愛子駅間はノンストップ、愛子駅～仙台駅間は各駅停車を想定し算出 <small>※乗継時間はダイヤ編成により決定する</small></p> </div> </div>						
出典：仙山圏交通網の整備調査結果について（平成 29 年 2 月 山形市）							
実施主体 連携する主体	山形市						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	検討・協議					

④ 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出

取組4-1 山形・仙台をつなぐ広域エリアでの観光振興

取組番号	(1)	取組名	仙山線を活用した旅行商品の造成				観光	新規
計画期間内事業	①令和3年度に実施したモニターツアーを踏まえ、仙山線を活用した作並温泉への宿泊と山寺・作並の観光コンテンツを中心とした仙山線を活用した旅行商品の造成を検討する。 ②山寺・天童・作並・秋保の4つのエリアを対象とした広域旅行商品の造成を検討する。							
長期的事業	③山形連携中枢都市圏の市町と連携し、地域ブランディングの向上を図りながら広域周遊について検討する。							
実施主体 連携する主体	山形市、仙台市、DMO さくらんぼ山形、DMC 天童温泉 山寺観光協会、秋保温泉旅館組合、作並温泉旅館組合、天童温泉協同組合							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	検討・造成						
	②		検討・随時造成					
	③				検討・随時造成			

取組4-2 観光イベントの開催

取組番号	(1)	取組名	イベント列車の運行				観光	継続
計画期間内事業	①仙山線イベント列車を運行する。 ②仙山線イベント列車の運行に合わせて作並駅感謝祭を開催する。							
実施主体 連携する主体	①鉄道事業者 ②山形市、仙台市 ②山寺観光協会、作並温泉旅館組合							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	実施						
	②	実施						

取組番号	(2)	取組名	日本遺産（山寺が支えた紅花文化） 関連イベントの実施			観光	継続	
計画期間内 事業	①日本遺産（山寺が支えた紅花文化）の紹介映像の放映や山寺地内に紅花プランターを設置し山寺の魅力を発信する。 ②山寺地内の紅花栽培地の観光地としての受入環境整備に合わせてランドオペレーターやガイド育成を行い、着地型旅行商品を造成する。							
長期的事業	③日本遺産の構成市町と連携し、広域周遊について検討する。							
実施主体 連携する主体	①山形市、山寺観光協会、山形市観光協会 ②山形市、山寺観光協会、山形市観光協会、民間旅行会社 ③山形市、関係市町、山寺観光協会、山形市観光協会、民間旅行会社							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	実施						
	②	検討・随時造成						
	③				検討・随時実施			

取組4-3 仙山線沿線観光マップの配布・配信

取組番号	(1)	取組名	仙山線に関連するマップの配布・配信			観光	継続	
計画期間内 事業	①仙山線を利用した仙山圏の観光振興を促進するために、仙山線沿線の観光スポットや仙山線の魅力を取りまとめた仙山線マップ（日本語版・英語版）の配布を継続する。 ②WEB 媒体で仙山線に関するマップを発信するとともに、その効果を把握し、今後の施策への反映について検討する。							
実施主体 連携する主体	山形市、仙台市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	①	実施						
	②	検討・随時実施						

取組 4-4 門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出

取組番号	(1)	取組名	駐車場や遊休不動産の活用による山寺への誘客促進と回遊性向上			観光	新規
計画期間内事業	①令和3年度に実施した門前町（山寺）の歩行者天国化による山寺マルシェの検証を踏まえ、山寺観光協会や地域住民と協議を行い、駐車場や遊休不動産の利活用（物販やイベントの開催等）を支援し誘客促進と回遊性向上を図る。						
実施主体連携する主体	山形市						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	随時支援					

取組番号	(2)	取組名	魅力ある景観形成の推進による山寺への誘客促進			その他	新規
計画期間内事業	<p>①景観重点地区における景観形成事業を支援し、山寺地区固有の多様な魅力を守り・生かしながら、来訪者も住民も歩き・語らい・楽しめる、人々で賑わう景観の創出を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>※山形市景観重点地区景観形成事業費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者 景観重点地区において補助対象事業を行おうとする者 ・対象事業 建築物等の修景を行う事業で、山形市景観計画に適合するもの等 ・対象経費 <ul style="list-style-type: none"> ①住宅等修景事業（新築、増改築、大規模な修繕・模様替） ②色彩修景事業（周辺と著しく不調和な色彩の屋根、外壁の塗り替え） ③建築設備等修景事業（屋外に露出し景観を阻害している建築設備や広告物等の除去、隠ぺい、改善） ④外構修景事業（門、塀、さく、植栽等の整備） <p>・補助金の額 補助対象経費の合計額に3分の2を乗じて得た額（①・②は300万円、③・④は50万円を上限）</p> </div>						
実施主体連携する主体	山形市						
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	
	①	随時支援					

⑤ 仙山線利用の意識醸成

取組5 仙山線利用の意識醸成

取組番号	(1)	取組名	仙山線利用促進のPR				生活 観光	継続
計画期間内 事業	①広報やまがた等において公共交通の利用啓発を実施する。 ②市職員を対象としたノーマイカー通勤を実施する。 ③仙台市交通フェスタ等のイベントにおいて仙山線の利用啓発を実施する。 ④大学等と連携し通学に利用可能な既存地域内交通の周知を実施する。 ⑤既存のパスやきっぷ（せんだいまるごとパス、仙山線Wきっぷ等）について、様々な媒体をとおして活用に関する周知を実施する。 ⑥イベント等の実施に際し、来訪者に対し事前の周知を行い、仙山線利用促進を図る。 ⑦モビリティ・マネジメント等の取り組みである「せんだいスマート※」を推進し、公共交通の利用促進を図る。							
実施主体 連携する主体	①②③④⑥山形市 ⑤山形市、仙台市 ⑦仙台市							
実施時期	事業	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)		
	① ⑤ ⑥	実施						

※せんだいスマート

仙台市では、鉄道やバスなどの公共交通利用者の増加を目指すため、「せんだいスマート」をキャッチフレーズに公共交通利用促進の様々なソフト施策を推進しています。

「せんだいスマート」には、市民の方々に普段の移動で公共交通などを利用することを通して、健康面や生活そのものをスマートなものにしてもらいたいというメッセージが込められています。

7. プロジェクトの進捗管理

7-1 評価・進捗管理の考え方

プロジェクトを着実に実行し、目指すべき仙山線の将来像の実現を図っていくため、PDCA サイクルに沿ってプロジェクトの進捗管理、目標達成評価、状況の変化に応じたプロジェクトのブラッシュアップを行っていきます。

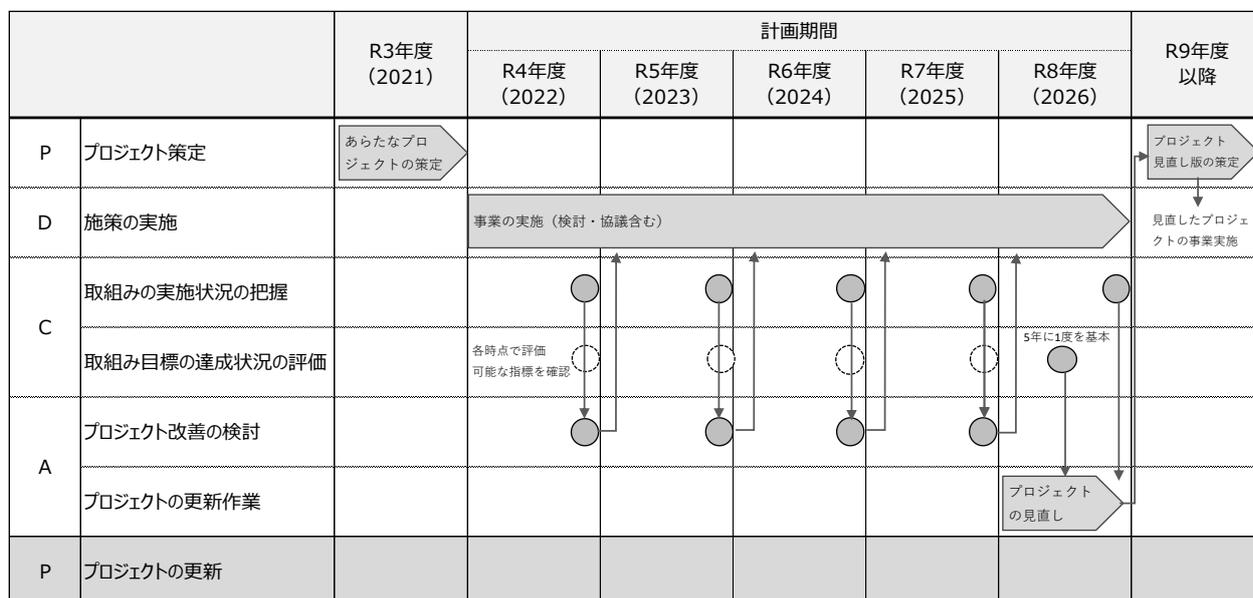
プロジェクトの進捗管理については、「取組実施状況確認項目（7-2 参照）」を基本として毎年実施します。その結果に応じて次年度以降の取組みの改善点を確認します。

目標の達成状況の評価については、「評価指標（7-3参照）」により5年に1度を基本とします。ただし、5年を待たずに途中年度で評価指標が得られる場合は、適宜評価指標の推移をモニタリングし取組み実施の参考とします。なお、途中年度で評価を行う場合には、データ取得と取組み実施のタイミングや社会情勢の変化などに着目し、取組みの効果が反映されているものであるかに留意します。

▼評価の頻度と評価結果の扱い

評価	実施頻度	評価結果の扱い
取組みの実施状況の把握	毎年	<ul style="list-style-type: none"> 取組みの進捗の確認 次年度以降の取組みへ反映
目標の達成状況の評価	5年に1度を基本とする	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降のプロジェクトの課題を整理
	途中年度で評価指標が得られる場合、適宜モニタリングを実施	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降の取組みを改善 ※データ取得と取組み実施のタイミングや、社会情勢の変化などに着目し、取組みの効果が反映されているものであるかに留意

▼PDCA サイクルのイメージ



7-2 取組実施状況確認項目

下記の「取組実施状況確認項目」を基本として毎年各取組みの進捗管理を行います。

▼取組実施状況確認項目

目標	目標を達成するための取組	事業期間	取組実施状況確認項目	
			導入・実施前	導入・実施後
① 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現	取組1-1 バスを活用した地域内交通の導入			
	(1) 北部循環バス（(仮称)北くるりん）の導入【継続】	計画期間	・進捗状況	・利用者数（年度比）
	取組1-2 タクシー等を活用した地域内交通の導入			
	(1) 【山寺駅】観光系地域内交通の導入【新規】	計画期間	・進捗状況	・利用者数（年度比）
	(2) 【楯山駅】鉄道駅との結節に着目した交通サービスの導入【継続】	計画期間	・進捗状況	・利用者数（年度比）
	取組1-3 自転車を活用した地域内交通の導入			
	(1) コミュニティサイクルの導入【新規】	計画期間・長期	・進捗状況	・利用者数（年度比）
② MaaS導入による仙山線の利用環境の向上	取組2 MaaS導入による仙山線の利便性向上			
	(1) 交通系ICカードの利用拡大【継続】	計画期間	・普及啓発活動の実績 ・路線バス等の利用者における交通系ICカード利用者の割合	
	(2) コミュニティサイクルの導入（再掲）【新規】	計画期間・長期	・進捗状況	・利用者数（年度比）
	(3) 鉄道と高速バスの連携チケットの発行【継続】	長期	・検討状況	
	(4) TOHOKU MaaSや仙台MaaS等との連携【新規】	長期	・検討状況	
③ 仙山線の安定性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化	取組3-1 鉄道駅のバリアフリー化			
	(1) 北山形駅バリアフリー化整備事業の推進【継続】	計画期間	・進捗状況	・北山形駅の利用者数
	(2) 山寺駅等のバリアフリー化【新規】	長期	・検討状況	
	取組3-2 駅前広場等の整備			
	(1) 交通結節点（駅前広場等）の整備【新規】	計画期間・長期	・進捗状況	・整備施設の利用状況
	取組3-3 交通系ICカード対応駅の拡大			
	(1) 交通系ICカード対応駅の拡大【新規】	長期	・検討状況	
	取組3-4 他路線と仙山線の接続向上			
(1) 奥羽本線や左沢線と仙山線の接続向上【拡充】	長期	・検討状況		
	取組3-5 仙山線の増便			
	(1) 仙山線（山形～愛子間）の増便【拡充】	長期	・検討状況	
④ 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出	取組4-1 山形・仙台をつなぐ広域エリアでの観光振興			
	(1) 仙山線を活用した旅行商品の造成【新規】	計画期間・長期	・進捗状況	・造成した旅行商品の利用者数
	取組4-2 観光イベントの開催			
	(1) イベント列車の運行【継続】	計画期間	・イベント列車の乗客数 ・作並駅感謝祭の実施状況	
	(2) 日本遺産（山寺が支えた紅花文化）関連イベントの実施【継続】	計画期間・長期	・日本遺産関連事業等の実施状況 ・旅行商品造成の進捗状況	・造成した旅行商品の利用者数
	取組4-3 仙山線沿線観光マップの配布・配信			
(1) 仙山線に関連するマップの配布・配信【継続】	計画期間・長期	・仙山線マップの配布数 ・WEB媒体作成の進捗状況	・WEB媒体へのアクセス数	
	取組4-4 門前の機能の充実と賑わいあふれる沿道景観の創出			
(1) 駐車場や遊休不動産の活用による山寺への誘客促進と回遊性向上【新規】	計画期間・長期	・支援状況	・物販やイベントの開催数（入れ込み数）	
	(2) 魅力ある景観形成の推進による山寺への誘客促進【新規】	計画期間	・景観形成事業の実施状況	
⑤ 仙山線利用の意識醸成	取組5 仙山線利用の意識醸成			
(1) 仙山線利用促進のPR【継続】	計画期間	①③⑥利用啓発の実施状況 ②ノーマイカー通勤における実施状況 ④既存地域内交通の周知実施状況 ⑤既存バスきっぷの周知実施状況 ⑦せんだいスマートの取組み実施状況		
① 広報やまがた等において公共交通の利用啓発を実施する。				
② 市職員を対象としたノーマイカー通勤を実施する。				
③ 仙台市交通フェスタ等のイベントにおいて仙山線の利用啓発を実施する。				
④ 大学等と連携し通学に利用可能な既存地域内交通の周知を実施する。				
⑤ 既存のバスやきっぷ（せんだいまるごとバス、仙山線Wきっぷ等）について、様々な媒体をとおして活用に関する周知を実施する。				
⑥ イベント等の実施に際し、来訪者に対し事前の周知を行い、仙山線利用促進を図る。				
⑦ モビリティマネジメント等の取り組みである「せんだいスマート」				
モニタリング指標（毎年）	JR公表データより ①1日平均乗車人員、②平均通過人員			

7-3 評価指標の設定

各目標の達成状況を確認するための「評価指標」を以下のとおり設定します。

▼目標に対する評価指標

目標	目標に対する評価指標	現況値	目標値
1. 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現	新規地域内交通の利用者数 (北部循環バス、山寺の観光系地域内交通、楯山駅との結節に着目した交通サービス、コミュニティサイクルの利用者数の合計) (※1)	—	112,330 人/年
2. MaaS 導入による仙山線の利用環境の向上	路線バス等の利用者に占める交通系 IC カード利用者の割合 (※2)	0%	50%
3. 仙山線の安定性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化	北山形駅の 1 日あたりの利用者数	1,351 人/日	1,365 人/日
4. 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出	山寺を訪れる観光客に占める鉄道利用者の割合	22%	23%
5. 仙山線利用の意識醸成	山形市・仙台市間の通勤・通学者数	3,675 人	3,712 人

※1：各地域内交通の導入の進捗状況に応じて目標値を見直すこととする。

※2：交通系 IC カード導入 1 年経過後に目標値を見直すこととする。

【補足：目標値設定の考え方】

前頁に示した評価指標の目標値については、それぞれ以下の考えに基づいて設定しました。

▼目標値設定の考え方

目標	目標に対する評価指標	目標値の考え方
1. 仙山線各駅周辺での地域内交通の充実による都市内移動の実現	新規地域内交通の利用者数（北部循環バス、山寺地域内交通、楯山駅地域内交通、コミュニティサイクルの利用者数の合計）	北部循環バス、山寺の観光系地域内交通、楯山駅との結節に着目した交通サービス、コミュニティサイクルについて、1日あたりの利用見込や1便あたりの利用見込を他事例等を踏まえ予測し、1年あたりの運行日数・利用可能日数換算し112,330人/年とした。
2. MaaS導入による仙山線の利用環境の向上	路線バス等の利用者に占める交通系ICカード利用者の割合	当該評価指標は山形市地域公共交通計画（令和2年度策定）の評価指標でありこれに準じた現況値と目標値とした。 ※交通系ICカードによる鉄道利用者の利便性向上を目標とするものであるが、令和4年度に山交バス(株)が新規に導入する「地域連携ICカード（チェリカ）」に着目し、路線バス等の交通系ICカード利用の進捗率を当面の評価指標として採用する。
3. 仙山線の安定性・速達性・快適性向上のための鉄道機能強化	北山形駅の1日あたりの利用者数	山形市地域公共交通計画（令和2年度策定）において公共交通の利用者数の目標値を1%増としており、これに準じた目標値とした。 現況値：1,351人/日（R2年度） 目標値：1,365人/日（R2年度の実績の1%増加） ※現況値はコロナ禍のため例年より利用者数が少ない年であるが、通勤通学等の日常生活での利用者が多いという北山形駅の特徴を踏まえると今後R2の水準で推移することが考えられるため、R2を現況値とする。
4. 仙山線沿線の観光振興と連携した仙山線利用機会の創出	山寺を訪れる観光客に占める鉄道利用者の割合	山形市地域公共交通計画（令和2年度策定）において公共交通の利用者数の目標値を1%増としており、これに準じた目標値とした。 ※観光地の魅力向上に向けた満足度調査（山形・上山・天童三市連携観光地域づくり推進協議会）の結果から数値を把握する。
5. 仙山線利用の意識醸成	山形市・仙台市間の通勤・通学者数	最新の国勢調査（H27）の値を現況値とする。 目標値は取組みによる新たな通勤通学者の増加を1%見込んだ値とした。 現況値：3,675人（H27） 目標値：3,712人（H27の1%増加）

7-4 評価の実施体制

プロジェクトの推進にあたっては、プロジェクトの検討を行ってきた「仙山圏交通網の充実に
向けた仙山線の利用促進及び利便性向上に関する勉強会」において取組みの実施状況の評価等
を行います。

▼「仙山圏交通網の充実に向けた仙山線の利用促進及び利便性向上に関する勉強会」の構成員

関係機関等	所 属	備考
学識経験者	福島大学准教授	
	宮城大学准教授	
東北運輸局	鉄道部計画課	アドバイザー
	観光部観光地域振興課	アドバイザー
	交通政策部交通企画課	アドバイザー
仙台市	文化観光局東北連携推進室 東北連携推進担当	
	都市整備局総合交通政策部 公共交通推進課	
山形市	企画調整部企画調整課交通 交通政策室	
	商工観光部観光戦略課	
東日本旅客鉄道株式会社 仙台支社	営業部販売課	オブザーバー
	営業部観光推進室	オブザーバー
	総務部企画室	オブザーバー
山交バス株式会社	営業部乗合課	オブザーバー
(事務局)	山形市企画調整部企画調整課 交通政策室	